

みんなで作ろう！ ごみ問題

ごみ減量で、 焼却炉の寿命を延長！

焼却施設の現状を知ろう

市内から出された燃やせるごみと資源ごみを処理している環境センターは、1日37.5トンのごみを処理できる焼却炉を2基設置し、1日(24時間稼働)に最大75トンのごみが焼却できます。

本来は、焼却炉の負担を少しでも軽減させるために、2基ある焼却炉を交互に運転する方法が、経済的で効率的なごみ処理といわれていますが、本市では1日平均40トン以上、多い日には、60トンを超えるごみが出されるため、焼却炉2基をフル稼働して処理しています。

ごみ処理施設の命は焼却炉で、その寿命は15〜20年ほどと言われています。しかし、焼却炉の使い方によって、寿命をさらに5年、

本来は、2基ある焼却炉を交互に運転させると、負担が少なく施設が長持ちします。

ですが、ごみの量が多すぎて、2基ともフル稼働し続けているのが現状です。



10年と延ばすことができます。

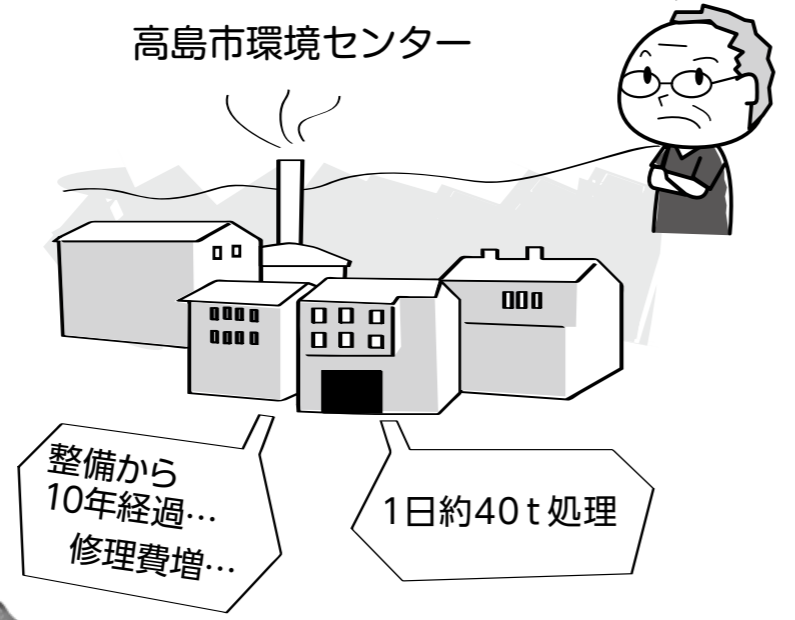
ごみ処理施設の耐用年数は、他の公共施設と比較するとかなり短く、市の厳しい財政状況を考えると、施設を1年でも長く使用できるように長期的な視点に立って、設備や機器の更新などを適切な時期に計画的に行う必要があります。

市では、本年度、環境センター長寿命化計画(案)を作成し、施設が長期の使用に耐えるように計画的で効率的な維持管理の検討を行うほか、施設の更新時期など、将来にわたっての総合的なコスト削減を図れるように取り組んでいます。

市民の皆さんも、もう一度自分の出すごみについて考え、できることから始めてください。

整備や機器の更新には、たくさんの費用がかかります。

なるほど。無理して焼却してるんやな



暮らしが便利になり、豊かになればなるほどごみの量は増え、その種類も多様化しています。

集積所に出せば収集されるごみ。いつしか、ごみ出し放題の生活が当たり前のようになっていきますが、それらを処理するためには多額の費用がかかっています。

「私たちが出すごみの量はどのくらいあるのか？」

「どんなものが多く含まれているのか？」、そして、

「どうすればごみは減らせるのか？」

今回は、市のごみの現状を知っていただき、ごみ減量化と環境センター焼却施設の延命化を図るため、私たちができることを考えます。

